

まつかげ会会報

発行
愛知縣中川中學校
愛知県立松蔭高等学校
同窓会
名古屋市中村区烏森町
2-2
印刷
日本メール株式会社



同窓会会長
星野 行正

昭和48年卒(25回生)

この九年間、和太鼓部のおかげで、日本全国を旅させていただけたと感謝しています。

平成二八年の広島から高校総文への出場が始まり、宮城県、長野県、佐賀県、和歌山県、東京都、岐阜県と、初めて訪れた地域もありました。

途中、コロナ禍により、ビデオによる評価判定となった高知県、離島での開催となった鹿児島県へは応援に行けませんでした。宮城県での開催は、記憶に大きく残っています。

宮城県まで行くのなら、東北地方を廻ってこようと、青森のねぶた祭や秋田の竿灯祭を見学してきました。

帰宅して、学校から国立劇場の出演が決まったとの連絡に、驚いたことを記憶しています。さらに言えば、昨年と今年は最高評価の「文部科学大臣賞」を受賞し新しくなった国立劇場へ応援に行きました。

十年弱、和太鼓部の演奏を見てきて驚くのは、毎年バージョンアップされていることです。これは、一重に

指導者のあくなき向上心によるものだ、と思います。

「祈り」という演目は途中謡が入ります。

従来、女性の声为主体だったのですが、今年は男性の声が主体となり、迫力が増し、太鼓の音と共に舞台からの圧は半端ないものになりました。

勿論、演奏する生徒たちも相当の努力をしていると思います。松蔭高校に入学するまで太鼓のバチを握ったことすら無い生徒もいるでしょう。十数人が、息を合わせて一つの太鼓音に聴こえるようになるまで、何度、手の平の皮を破ったことでしょうか。しかも演奏途中にバチを回したり、放つたりと、見ている者からすると、よく出来るなあと感じるばかりです。

母校の和太鼓部がどんな演奏かご覧になりたい方は、YouTubeでご覧いただけますので「松蔭高校」「和太鼓部」「高校総文」などのキーワードで検索して見てください。

生の迫力を感じたいという方は、名古屋城宵祭、中川区金魚祭、また、中村図書館内のホールで見る機会があります。

ただ、観賞券はプラチナチケットになっており、入手困難になっている様です。

部活動の盛んな県立の進学高校として、最近では、和太鼓部だけでなく、書道部も高校総文に出たり、陸上部が競歩でインターハイ出場するなど全国大会で活躍する生徒が増えてきています。新しいところでは、演劇部が全国大会に出られるかもという良い評価を貰うようになったと聞いており、卒業生として嬉しく思います。

最後に、同窓会のご協力のお願いです。

部活動のOB会があると聞いているのですが、OB会の幹事の方に、同窓会にご協力をお願いできませんでしょうか。

来年の八十五周年を予定していますが、今後九十年、百周年と大きな節目を迎えます。そうした中で一番必要な力は動員力です。

二万件を超える会報誌を送付していますが、八十周年にご出席いただいた同窓生は、百人に至りませんでした。

多くの方のご協力があれば、動員力が増し、明るい同窓会が見えてくると思います。

私がまつかげ会に関わり始めてから二十年以上になりますが、当時から動員が課題でした。

五十周年六十周年の記念誌を拝見した時、広告掲載ページには八十周年記念誌の六〜七倍のページ数がありました。

会員会費の次年度繰越金も一千万円を下回る事が無かつたそうです。

会費の金額設定を変更することも一つの方法ですが、百人で一万円出し合うより、千人で千円を出し合うことを選びます。

それは、いざという時の動員力に違いが出るからです。

九十周年 百周年は、必ず迎えます。そうした時に開かれる式典に、卒業生が、百人に満たないのを見て、在校生は何を思うでしょうか。

ですから、皆さんのお知恵と知見をお借りしたいのです。

多くの方のご協力があれば動員力が増し明るい同窓会が見えて来るとおもいます。

我こそは、という方は、同窓会のホームページからご連絡先を教えてください。どんな活動をしているかお伝えします。

そんなたいした事はしていません。是非、多くの方からのご連絡をお待ちしています。

宜しくお願いたします。



校長
久保田 昌俊

◆はじめに

まつかけ会会員の皆様方におかれましては、日頃から母校である松蔭高校の教育活動にご支援とご協力、そして力強い応援をいただいておりますことに心強く思うとともに深く感謝申し上げます。

さて、世界を震撼させた新型コロナウイルス感染症も、わが国では昨年の5月に感染症法上の分類が5類に移行し、季節性のインフルエンザと同等の扱いになりました。この間、本校の教育活動も縮小せざるを得なく、授業や部活動、学校行事に一定の制約を設けてきました。ようやく現在はコロナ禍を脱した教育活動を展開しております。学校の近況については、別稿で報告させていただきますが、本稿ではポストコロナである現況を踏まえた校長としての思いを交えてお伝えいたします。

◆明るい笑顔に満ちた活気あふれる学校

まず、マスク生活から開放され、生徒や教職員の表情がとても豊かに感じるようになりました。また控えめにしていた会話も、遠慮なく笑い互いに絡み合いながらはしゃぐシーンも多くなり、会話自体が弾むことから校内に活気が増してきました。松蔭生はまずこれが基本です。「笑顔」は何事も前向きに取り組んでいける魔法のようなものです。活気あふれる学校づくりに「笑顔」は欠かせません。

◆ポストコロナの体育祭に挑戦

本校の魅力は生徒自らで作り上げる学校行事。そして「松蔭といえば体育祭」です。コロナ禍中は密を避けるため、体育祭の「華」である群団発表は3年生のみの小規模編成で実施しましたが、今年は4年ぶりに3学年全員の大規模編成にチャレンジです。何せ、生徒は入学以来誰も大規模編成の群団発表を経験しておらず、教員も相当数異動しているため支援する立場も少ない状況で、まさに言葉どおりの「挑戦」でした。こうした中、体育祭実行委員と群団長、そして各部門のリーダーたちが一から努力し、群団発表のみならず各部門で1・2年生を巻き込んだ全校生徒が作り上げる体育祭が復活しました。特筆すべきは以前の完全コピーではない新しい形の体育祭を作り上げたことです。松蔭生にはこうした独創力と団結力の強さが、コロナ禍の空白期間を超えても根付いていることが確認でき、改めて彼らのパワーを頼もしく感じました。

◆新たな枠組みで挑んだ文化祭

今年の文化祭は久しぶりの金曜・土曜開催となり、土曜日には在校生の家族はもちろんOB・OGや近隣の方々、そして学校見学会を兼ねた中学生の入場など多くの方が来校されました。そしてPTAの協力によるキッチンカーの導入により、中庭の賑わいが創出されてお祭り感がアップしました。さらに新たな取り組みとして、3年生の「探究発表会」を同時開催し、文化の祭典に全学年が取り組める環境が整いました。

従来からの文化祭+αで挑んだ今年の文化祭。今の松蔭生が創出する文化の薫りをぜひ卒業生の皆様にも実感していただけたらと思います。

◆オールド卒業生の学校訪問

コロナ禍明けの昨年度は、70歳を超えるオールド卒業生が数組来校されました。コロナ渦中に自粛していたクラス会などが再開したこ

ともあるようで、同期の方々と久しぶりに名古屋に集まった際、この機会に母校を見に行ってみようと思われたようです。事前に連絡もいただいていたので、当時の卒業アルバムなどを用意してお待ちしていると大変懐かしがられ、当時の思い出話に沸いていました。今の母校をご覧になられると、一様に皆さん「昔と変わっていないなあ」とおっしゃられます。内装はリニューアルしていますが、外観は昔と変わらぬ風格があるのでしよう。一緒にお話を伺っていると、私よりもはるかに先輩の方々が、まるで高校生のように目を輝かせて語られる姿が印象的で、大変楽しい時を過ごさせていただきました。

◆おわりに

松蔭高校は八十有余年の歴史を誇り、卒業生の皆さんが培ってきた文化や伝統を、コロナ禍という未曾有の事態をも乗り越え、少しずつ形を変えながらも繋いできています。皆様もご承知のように、教育を取り巻く環境は大きく変化してきておりますが、いつまでも「松蔭生が松蔭生たるもの」を大事にしていくことを私は校長として大切にしていきたいと考えております。ぜひ皆様も、機会がありましたら最近の母校の様子をのぞきにいらっしやいませんか。歓迎してお待ちしております。





教頭

鈴木 啓和

今年の夏も「猛暑」「酷暑」と言われる夏でした。学校でも毎日のように熱中症対策に配慮して授業や学校行事、部活動が行われました。加えて新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ、マイコプラズマ肺炎等の感染症については季節を問わず流行するようになっており、生徒の健康管理にもよりきめ細やかな指導が必要となっている状況です。

このように、教育活動を取り巻く環境は、社会的なことだけではなく、自然環境の面でも日々変化し続けます。しかし、本校では多くの生徒や先生方が、ともに笑顔で生き生きと学習活動や学校行事、部活動に取り組んでおり、日々松蔭高校のパワーを感じていると幸いです。

同窓会の皆様におかれましては、松蔭高校の教育活動に、日頃から多大な御支援いただいております、大変感謝しております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

以下に、本校の近況を報告させていただきます。

1. 部活動について

陸上競技部

5000メートル競歩において、2年生伊藤青羽君が地区大会、県大会、東海大会を勝ち抜き、

令和6年度全国総合体育大会「北部九州総体2024」(インターハイ)に出場しました。伊藤君は予選2組に登場し、結果12位(記録23分11秒67)で惜しくも決勝には進めませんでした。しかし、まだ2年生であり、来年のインターハイに向けてすでに新たなスタートを切っています。

和太鼓部

令和6年8月に岐阜県土岐市で行われた「全国高等学校総合文化祭(清流の国ぎふ総文2024)」において、9年連続全国大会出場のと太鼓部は、59校が参加した郷土芸能部門で全国第1位に相当する「文部科学大臣賞」を2年連続で受賞しました。この結果を受け、8月に東京新国立劇場において「第35回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演」に出演することとなり、この大舞台でも素晴らしいパフォーマンスを披露しました。

書道部

令和6年7月から8月にかけて岐阜県下呂市で行われた「全国高等学校総合文化祭(清流の国ぎふ総文2024)」に本校書道部の生徒の作品が出品されました。出品作品は8月の令和6年度アートフェスタ(愛知県高等学校総合文化祭)にも展示され、また12月の令和6年度全国高等学校総合文化祭書道部門優秀作品展示にも出品されます。

2. 体育祭について

6月に実施された体育祭は、新型コロナウイルス感染症対策のため3年生のみで行っていた「群団発表」が、いよいよ全学年での取り組みとなりました。「群団発表」は生徒たちが大変楽しみにしているもので、準備からかなり力が入っていました。本番では百人規模の演技の迫りに参観して

いた方々も大いに魅了されていました。体育祭当日は天候に恵まれ、地域の保育園児の玉入れへの飛び入り参加などもあり、大変盛り上がりしました。

3. 文化祭について

今年度の文化祭は、保護者だけでなく、卒業生や地域の方々、加えて中学生にまで範囲を広げ9月14日土曜日に公開開催を行いました。クラスや文化部、有志等それぞれが、教室や体育館、武道場、躍動像前の松蔭ガーデンで、今年も熱の入ったパフォーマンスを披露してくれました。PTAの保護者の方々にはアクティブラーニング室でパンやジュースなど生徒たちの嗜好を踏まえたものを販売していただき、生徒たちの長い行列ができるほどの大盛況でした。また、PTAの皆様の発案でキッチンカーを2台入れて、かき氷などの軽食の販売も行いました。初めての試みでしたが、来校された方々には大変好評でキッチンカー周辺は多くの人たちでにぎわっていました。天候にも恵まれ、生徒たちをはじめ来校された方々は、松蔭の文化祭を十分に楽しんでいました。

4. 修学旅行

修学旅行については、昨年度同様、関西方面で実施されました。今年は、初日に広島に入り平和記念公園などを見学し、二日目には複数のコースに分かれての分散研修を行い、備前焼体験やうどん打ち体験、美術館見学など貴重な体験をすることができました。最終日はグループごとに神戸や大阪、京都等を散策して回りましたが、雨模様の日が多く、天候には恵まれませんでしたが、3日間を通して級友たちとのよい思い出作りができました。

この十数年



教頭

小栗 浩隆

この4月で松蔭高校12年目を迎えました小栗浩隆と申します。

それほど大昔ではないですが、11年前をふりかえり、私の目から見えた松蔭高校の思い出を思いつくまに記したいと思います。

2013年3月の終盤に初めて松蔭高校の校舎に入り、当時の教頭先生に校舎を案内していただきました。前任校は、名古屋市内の最後の新設校だったので、松蔭高校の校舎には伝統を感じました。その時校舎について特に印象に残っている事は、床が緑色の廊下と改装されたトイレのきれいさでした。定期的には春休み中だったので、校舎内にいる生徒は少なかったですが、すれ違う生徒全員が初めて見る顔に対して「こんにちわ!!」と元気にあいさつしてくれました。

初年度は2年生理型の担任を持たせていただきました。9クラス中理型は3クラスで、担当となった2年1組は34人でした。現在の9クラス中約40人4クラス程がスタンダードな理型と比べるとずいぶん違います。しかし、個性が強く、元気で生きる力にあふれた生徒が多いなど感じました。私が異動前から知りたかった事は、見た目上、前任校ほど生徒指導をしているわけではない松蔭がどうしてたくましく活気よくこの状態を維持しているのか、でした。その答えは、程なくして見えてきました。

一つはやはり部活動。初年度は、男女バスケットボー

ル部の副顧問でした。4月には、3年生にとつて最後の大会となる総体予選があります。その大会に向けて仕上げていく3年生、そしてチームはとても凛々しく見えました。当時、どの部活動にも、部訓や部則といったその部活動独自のルールみたいなものがあり、それが学校での生活をコントロールしていました。例えば、廊下を歩けば「こんにちわ!!」「こんにちわ。」とあいさつしっぱなしです。そして、特に男子の部活動では、上下関係がはっきりしており、硬派で統制が取れている印象でした。

体育館を使用する部活動は、総体予選が同じ時期になるので、総体予選直前の金曜日には、部活動間で示し合わせ、練習後に「出陣式」という儀式を行っていました。バレー男女、バスケット男女、バドミントン、ハンドボール男女合わせて200人を超えていたと思います。それらが体育館で大きな輪となります。各部活動の主将らは、黒地で背中に白色の字で「大黒柱」と大きく書かれたポロシャツを着ています。輪の真ん中に1つずつ部活動が出てきては試合に向けての意気込みやエールを順に披露しだんだん盛り上がっていきます。最後に、ある部活動の主将が音頭を取り全員でエール、「♪大きく胸を張りー!」の応援歌(一部の体育館部活動しか知らないかもしれません。)などを歌い、盛り上がり最高潮にしてこの儀式は終わっていきます。入部したばかりの新生たちは先輩たちに圧倒されながらもこういった儀式により一歩松蔭生としての歩みを進めることになりました。

もう一つは体育祭(学校行事)。体育祭への取り組みは、4月、クラス発表がなされた時からスタートです。本来オフィシャルには、1学期中間考査終了後からが準備期間となりますが、3年生達はクラスのメンバーが確定したその瞬間から幹部を決め組織づくりを始めます。これは、もちろん教員がやるように指示するものではなく先輩から代々続く伝承でしょうか、生徒らは主体的に堰をきったかのように準備を進めていきます。中間考査が終わり準備期間が始まると、群長達は、3学年3クラス分の群をよく統率していました。リーダー練習

では朝・昼・夕練をよくまとめ、業後の戸締りを徹底してまわり、群団単位で行う除草では、さぼりがちな下級生がいると本気で怒鳴りながら作業を進めていました。リーダー練習は、お昼も行うので、中にはお弁当を食べそびれる生徒特に1年生も出てきます。そうすると、保護者の方々から「お昼ご飯をしっかりとらせてほしい」とご意見をいただくことがしばしば。毎年の事なので、あらかじめ昼食時間は確保するように各群ルー化しているのですが、とても濃密で1年生にとっては濁流のような2週間の準備期間を一気に駆け抜け、本番で完全燃焼。体育祭を終えると、初々しかった1年生達は、一気にたくましい松蔭生に変貌し、2年生は、いよいよ来年は自分達だと自覚し、3年生は、受験生として意識を切り替えるタイミングでした。

そんな中で数年過ごし、2017年度の入試から松蔭高校が1・2群共通校となりました。これが関係するかどうかわかりませんが、松蔭生の気質がやや変わったように感じました。

最大の変化は、やはりコロナ禍。これによって社会の全てが変化を余儀なくされました。学校現場では、学校への登校、授業、部活動や学校行事が制限されました。学校へ登校し、普通の活動をする。この普通の活動がどれほど大切であったかということを感じました。

そして現在、コロナ禍で止まった行事は、令和の生徒に合った形でリノベーションし、再び実施できるようになっています。部活動も制限なく活動が戻りつつあります。活気は戻ってきてはいますが、廊下を歩いても中々元気なあいさつは飛んでこなくなりました。

松蔭高校の長い歴史の中には、入試制度やその他時代の流れによる変動等は数々あったでしょう。しかし、体育祭をはじめとする行事や部活動は、ずっと続けられこの松蔭の校風をつくってきました。これからの松蔭にとって、いままでもあったいい伝統は失うことなく伝えていき、同窓生の皆様におかれましては「なつかしい松蔭」「いいな松蔭」と思っていただけのように尽力したいと考えています。

松蔭高校は来年 創立85周年を迎えます

この機会に部活OB会や
クラス会を開催してみたいはいかがでしょうか。



2023年 S57年卒「還暦同窓会」のようす

**2025年秋に創立85周年記念事業の開催を
予定しております。**

詳細は2025年8月に送付する会報誌にてお伝えします。

和太鼓部より

部長 渡邊 大雅



僕たち和太鼓部は、8月上旬に清流の国ぎふ総文2024全国高等学校総合文化祭で最優秀賞を頂きました。昨年度先輩方が最優秀賞に選ばれたこともあり、二連覇という目標を掲げていた僕たちは、一人一人が真剣に練習に取り組み、仲間と声を掛け合い、「祈り」という曲に向き合いました。太鼓、笛、唄、獅子、巫女。出場した2、3年生54人全員が一丸となつて一つのものを作り上げられたことには、最優秀賞に勝るとも劣らない価値を感じました。

勿論、順風満帆だったわけではありません。練習の過程で何度も壁にぶつかつたり、思い悩んだりしました。僕自身も心を病んだり、部活の存在が億劫に思えたことが多々ありました。でも、やはり僕らの心を支えてくれたのは仲間の存在でした。無意識のうちには部長という重圧を感じてしまつていたのかも知れませんが、次第に自分の足



枷が外れていくように思えました。

その後8月24日の優秀校東京公演では、国立劇場という素晴らしい舞台上で演奏させて頂きました。僕たちにとつて最後の演奏です。演奏後は様々な感情が溢れて涙が止まらかつたのと同時に、支えてくれた人たちへの感謝を改めて感じました。感動して涙を流していた観客の方もいたという話を後に聞いたとき、胸が熱くなりました。

基本何か一つのことを一人で成し遂げるのは難しいことで、時間がかかることはなおさらです。しかし、同じ志を持つ人、支えてくれる人が近くにいるだけで、その負担はぐっと減ります。立ち止まつてしまったとき、再び歩き出すために背中を押してくれる人の存在はとても偉大なものだと感じました。

陸上部より

顧問 清水 治馬



今年度、陸上競技部は3年ぶりに男子5000mWでインターハイ出場をすることができました。今回のインターハイ出場については、出場した選手が努力したことはもちろん、私が赴任してからの6年の間に、競争に取り組んだ7名の選手全員の挑戦し続けた結果でもあると感じています。また、10月中旬に行われたU18全国陸上競技大会でも、3000mWに出場することができました。10月下旬の東海新人陸上競技大会では、5000mWで2名とも自己ベスト更新の優勝と第3位と、来年度のインターハイ上位入賞に向けて確実に力をつけてきています。



現在は競争を中心に、様々な種目の部員が各々目標をもって練習に取り組んでいます。陸上競技部は短距離、中長距離、フィールド種目の大きく3つのブロックに分かれて練習に励んでいます。特に競争に関して言えば、顧問の私自身は、1歩も取り組んだことがありません。私自身、周りの先生方にアドバイスをいたしながら、選手の状態を見て、常に考えながら練習メニューを模索しています。選手自身も愛知陸上競技協会が開催する競争教室に欠かさず行き、他校の選手とコミュニケーションをとりながら、自身の歩型を磨くために考えて練習に取り組んでいます。「考えて取り組む」と当たり前のように言われている言葉です。しかし、彼らを見ていると考えるだけでなく、考えたことを妥協することなく徹底することが、真の力になるのだと感じさせられます。

未経験者でも、全国大会に出場することができる夢のある部活です。来年度のインターハイでは5000mWで2名の上位入賞をはじめ、多種目でも多くの活躍し、選手自身が夢を叶えることで他の生徒に夢を与えられるように頑張つてまいります。同窓会の皆様におかれましては、様々な場面でご理解・ご協力いただき大変感謝しております。今後とも変わらぬ応援よろしく申し上げます。

教職員異動報告

●令和6年度

【退職者】

教 頭

加藤 大真

退職

【転出者】

教 諭

小栗 浩隆(理科)

愛知県立松蔭高等学校(教頭)へ

養護教諭

澤田 美穂

愛知県立昭和高等学校へ

教諭(再任用)

藤中 政浩(地歴公民)

愛知県立熱田高等学校へ

渡邊 正孝(数学)

愛知県立名古屋西高等学校へ

【期間満了者】

教諭(再任用)

飯田 尚志(保健体育)

愛知県立松蔭高等学校(非常勤)へ

臨時の任用講師

亀井 桂司(英語)

愛知県立瑞陵高等学校(非常勤)へ

臨時の任用教諭

澁木 和薫(保健体育)

愛知県立木曾川高等学校(常勤)へ

臨時の任用実習教員

滝沢 酒蔵(英語)

愛知県立松蔭高等学校(校務支援員)へ

任期付任用講師

土井 靖之(理科)

愛知県立美和高等学校(常勤)へ

【転入者】

教 頭

小栗 浩隆(理科)

愛知県立松蔭高等学校から

教 諭

水谷 直人(数学)

愛知県立津島東高等学校から

天野 怜子(保健体育)

愛知県立東浦高等学校から

飯田 弥生(英語)

愛知県立中村高等学校から

田畑 恵(英語)

愛知県立佐屋高等学校から

田中さくら

愛知県立中川青和高等学校から

【再任用】

教諭(再任用)

近藤 健司(国語)

愛知県立惟信高等学校から

板東満代(地歴公民)

愛知県立熱田高等学校から

長谷部幸治(数学)

継続

寺尾 哲史(数学)

愛知県立名古屋西高等学校から

柴山 幸雄(理科)

継続

松井 宏介(理科)

継続

菅原弘勝(保健体育)

愛知県立愛知総合工科高等学校から

岩田 賢治(英語)

継続

萩原 清美(英語)

愛知県立松蔭高等学校から

実習教諭(再任用) 高橋恵美子
【任期付(非常勤等)】

継続

臨時の任用教諭 大西 真理(国語)

愛知県立千種高等学校から

臨時の任用講師 川勝 俊也(数学)

新規

臨時の任用教諭 兵藤恵美子(英語)

愛知県立熱田高等学校から

臨時の任用実習教員 加藤 光揮(保健体育)

愛知県立美和高等学校から

任期付任用主事 松岡菜穂美

継続

任期付任用講師 眞野昇太郎(理科)

新規

任期付任用教諭 国枝由美子(英語)

愛知県立松蔭高等学校から

非常勤講師 神谷 雅徳(国語)

新規

岡安 伸治(国語)

新規

小堂真貴生(地歴)

継続

前田 学(地歴)

新規

河合 靖(数学)

継続

西川 王将(数学)

新規

柴山 幸雄(理科)

継続

永田 肇(理科)

新規

米原 旭穂(保健体育)

新規

飯田 尚志(保健体育)

新規

中野 知矢(美術)

継続

小林みどり(英語)

継続

御宿 悟(英語)

継続

岩田郁久美(家庭)

新規

滝沢 酒蔵

新規

上山 夏輝

継続

古川 儀典

継続

坂野 敏江

継続

校務支援員

継続

校務補助員

継続

非常勤用務員

継続

進路指導部からの報告

まずは今春卒業した76回生の進路結果についてご報告させていただきます。国公立大学には、91名(現役生82名、浪人生9名)の生徒が合格をしました。これまで2年連続で国公立大学合格者三桁を達成しておりましたが今春は一步及びませんでした。しかし、76回生は例年より1クラス少ない8クラスの学年であったことや近年、浪人生の数が減少していることを踏まえるとまずまずの結果だったのではないのでしょうか。地元最難関の名古屋大学には9名の現役生が合格をしています。他にも名古屋市立大学、名古屋工業大学、愛知教育大学、愛知県立大学に25名の現役生が合格をしています。毎年、県外の国公立大学にも挑戦する生徒もおり、多数の生徒が合格・進学をしています。私立大学に関しては地元の南山大学、名城大学に前年度よりさらに多くの生徒が合格を勝ち取ってきました。また近年、関西地区・関東地区の大学に挑戦する生徒も増えています。特に合格者が多かったのが関西の立命館大学、同志社大学です。(詳細は松蔭高校ホームページでご覧いただけたらと思います。)

愛知県の高校生進学動向は、本校に限らず、強い地元志向であることが有名です。ご家庭の事情も斟酌しなくてはなりません。全国区で羽ばたいてくれることを期待したいところです。

さて、76回生が入学した当初を思い起こせばコロナ禍の真っただ中。1年次はマスクをして昼食のときでも前を向いて黙食をしていた学年でした。当時は「できないこと」「やってはいけないこと」がたくさんあり、生徒が思い描いていたキラキラとした青春とは程遠い、どんよりとした曇り空のような毎日でした。しかし、76回生はそのような毎日のなかでも「できること」「やるべきこと」に注力してくれました。今春の受験結果の最大の特徴は部活や行事で頑張った、活躍した生徒が受験でも良い結果を残していることです。「できないこと」があったからこそ発散できないエネルギーの矛先が「できること」に向かつていったように感じます。

学年が上がるにつれて、どんよりとした曇り空には徐々に光が差し、卒業するころには晴れ間が広がっていました。76回生は松蔭高校を巣立っていききましたが、進む先が明るいことを願ってやみません。





まつかけ会ゴルフコンペ第44回

優勝にさいして

25回生 高村豊明

執筆する前に優勝といふ思いもかけない賞を頂き、まつかけ会の運営関係者及び今回の参加者全員に御礼申し上げます。ゴルフコンペなので多少当日の様子等語りたと思います。その日の状態はゴルフ用語でいふダフリ、チョロ、ヘッドアップ他が出て調子良くなかったです。しかしながら大叩きしたホールが殆どスコアで順位を決める隠しホールとなっていて運に恵まれたとしか言いようのないものでした。

このように上手な人のみが優勝するわけではない面白みのあるのも事実です。

次回以降まだ参加されていない方もぜひお考えいただければ如何でしょう。

自身では今一度練習して再度賞品にありつける様努力したいです。



■ゴルフコンペ2024秋

順位	競技者名	GROSS	HCAP	NET
優勝	高村豊明	94	22.8	71.2
準優勝	山田健二	91	19.2	71.8
3位	山田弘幸	83	10.8	72.2
4位	早川栄一	100	26.4	73.6
5位	山田章二	87	13.2	73.8
6位	廣田美枝子	92	18	74
7位	林直樹	91	16.8	74.2
8位	宮崎弘一	84	9.6	74.4
9位	大野富康	111	36	75
10位	高橋俊彰	96	20.4	75.6



まつかけ会ゴルフコンペ第43回

■ゴルフコンペ2024春

順位	競技者名	GROSS	HCAP	NET
優勝	青木八束	88	16.8	71.2
準優勝	宮崎弘一	94	22.8	71.2
3位	板倉隆子	100	27.6	72.4
4位	岡田義郎	95	21.6	73.4
5位	一村勝彦	82	7.2	74.8
6位	富田善光	100	25.2	74.8
7位	林直樹	92	16.8	75.2
8位	渡邊健市	91	15.6	75.4
9位	山本志伸	101	25.2	75.8
10位	永瀬清守	100	24	76



Web口座振替受付サービスのご案内

※昨年度に紙で申し込みされた方は手続き不要です。

手続き

スマートフォンで右の二次元コードを読み取り手続きを開始します。
(ご家族の方のスマートフォンでも可能です)



最初の画面

2番目の画面

3番目の画面

4番目の画面

5番目の画面

6番目の画面

完了画面

次へボタンを押す

次へボタンを押す

同意するボタンを押す

以降は各銀行のページへ。支店情報、口座情報等を入力する。

この画面が表示されたら登録完了です。

※「register@acctrans-reg.jp」からメールが受信できるよう、受信フィルタをご設定ください。 ※メールが届かない場合でも、右の【完了】画面が表示されていれば登録完了です。
※Web口座振替の登録メールを受信しても、画面が【完了】になる前にブラウザを閉じると手続き完了になりませんのでご注意ください。

注意事項

1. 法人の口座は、ご利用いただくことができません。
2. 金融機関毎に利用可能な時間帯が異なります。
3. 金融機関によっては、本人確認のため、通帳に印刷されている最終残高の入力が必要になります。
4. キャッシュカード未発行の口座はご利用いただけません。

お問い合わせ先：共立コンピューターサービス株式会社
〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4丁目1番地の9 TEL：0584-77-2810

委託者番号	0902716795	アクセスキー	e50385
委託者名	日本メール株式会社(まつかけ会)	代金等の種類	同窓会費等
委託者住所	〒460-0024 愛知県名古屋市中区正木3-13-8 山田ビル1F・2F	振替(払込)日	28日(休業日の場合は翌営業日)

令和5年度協力金納入者御芳名

(一口、三〇〇〇円)

万一、御芳名もれがございましたら御容赦下さい。
令和5年7月1日から令和6年4月末日までの間にお振込みいただいた方を
※以降にお振込みいただいた方は次回掲載させていただきます。

旧職員

大野 英夫 原 文哉 福 永 孝雄
加藤 安信 木村 敏次 森 劍
大井 洋子 伊藤(古橋)佐保子 齊藤(春日井)喜世子
朱宮 晴三 野村 彰央 林 昌義
鶴田 良樹 飯田 弘臣 市江(浅井)隆
中島 宏 飯田 義明 江口 暢一
七ツ村 繁 井上 義明 奥村 巳善
服部 保孝 寺尾 暘太郎 貝谷 禎男
花井 幹郎 坂野 雅史 後藤(中根)正雄
平野 清 服部 治昭 細川 史郎
細溝 典彦 倉知(松浦)令子 吉田 計
山田 友造 山本(山田)典子 鈴木 和子
中川中學校 児玉 三千男 原田(山田)国代
昭和20年卒業(第1回) 高坂 泰右 伊藤(石野)敬子
須田 亮司 高木 守正 今本 修福
立松 英夫 京 藤 健司 吉田(早川)あい子
昭和21年卒業(第3回) 馬場 洋 青木 八束
古田 肥弘 長谷川 士郎 坂野(市江)照子
昭和22年卒業(第4回) 藤田 富久 本田 詞
吉川 与四朗 宮田(岸本)トシ 増山 睦臣
昭和23年卒業(第5回) 加藤 睦美 杉浦 正良 伊藤 英一
鈴木 照仁 沖本(恒川)久子 井上 博
昭和24年卒業(第6回) 佐々木 信一 内山(加藤)清子 酒井 章一
恒川 正男 角(山本) 貞子 伊藤(鈴木)かよ
日比 祐市 家守(福谷)幹雄 伊藤 博彦
吉田 孝則 飯田 慶彦 山田(伊藤)幸子
松蔭高等学校 伊藤 昇 石川(岩永)妙子
昭和24年卒業(第1回) 宮村 勉 中山(川口)都子
酒井 幸治 若尾 敬 久野(木村)順子
中川 六之 安藤(安藤)美智子 大葉(白井)愛子
古橋 攝郎 若松(市江)利子 平田(木村)文子
原(船橋)義夫 西垣(安井)澄子 松井(祖父江)和子
昭和25年卒業(第2回) 稲村 和男 大瀧 浩 廣田(玉越)宏子
吉田(河西)敏子 太田(木村)順子 新美(中川)潤子
立松(立松)艶子 高阪 彰 山田(岡田)久美子
昭和26年卒業(第3回) 杉浦 尚三 挺屋 義博

昭和31年卒業(第8回)

小澤(浅井) 佷 大池 広 坪井 瑞彦
高田 尚三 鶴飼(服部)豊江
鈴村(早瀬)和子 山岸 英一 鬼頭 孝司
矢島(志水)みゆき 森内(前田)好枝 本多(大岩)日出子
本多(大岩)日出子 谷 田 勲 朝日(梅村)貞子
吉氏(清水)晴美 杉浦(中川)益子 西尾(清水)紀子
昭和32年卒業(第9回) 山 名 一世 杉下(伊藤)せつ子
磯野(青山)久美子 市江 一夫 田端 鉄男
市江 一夫 杉下(伊藤)せつ子 馬路(坪井)康子
古家(中井)桂子 山田 国宗 伊藤(渡辺)多津子
熊崎(宇藤)艶子 加藤 宏美 笹木 硯一
佐藤(山田)悦子 片山(市野)主水 片島 一宏
田島 康雄 林 康雄 伊藤 忠男
伊藤 忠男 平松 純一 岩田 晏弘
上園 義輝 上園 進 山口 浩
山口 浩 山田 広嗣 山田 広嗣
田畑(後藤)浜保 井上(鬼頭)正己
本多 祐正 岡田(近藤)博
下田 繭三 吉田 克彦 梶原(鬼頭)きぬ子
根原(鬼頭)きぬ子 鶴飼(服部)豊江
石田(小塚)富子 近藤(小山)き代子 林(市江)秀子
昭和34年卒業(第11回) 鬼頭 孝司 荒川(木村)紘
廣田 春生 森川 滋 横井 一
早瀬 喜啓 伊藤 紀治 坂倉 宣雄
福島 昭治 山田 浩男 市江(市江)和子
松下(堀田)良子 近藤 要
浜口 龍治 山田 俊和 近藤(服部)照子
三浦(鬼頭)百合子 岡田 義郎 酒井(祖父江)八重子
林 直樹 柴田(川島)稍
岩間 次郎 佐藤 誠
加藤(津田)貴美恵 長塚(村井)美代子 宮島(渡辺)純江
昭和35年卒業(第12回) 渡辺 倫郎 成田(浅井)禄郎
河津 大器 北折 惺美 鹿島 貞和
成田 洋之 丹羽 正人 早瀬 房紀
佐藤(福谷)新治 山田 立之
森川(立松)京子 武田 健二 和佐田 勇
山本(大野)陽子 今井(前田)正江 小椋(村松)浩子
水野 廣男 伊藤 良吉 黒田(山田)恭子
木村 昌三 木村 好廣 土屋 定男
松井(加賀)郁子 鬼頭 敏子 平松(長崎)登代子
堀木(秋田)修 立松 昭司 荒木 勝彦
杉原 良太郎 山口 悟 三輪(鈴村)時子
森田(水谷)愛美 植村 昭太郎 大谷 洋
稲垣(後藤)智和 舍人 経昭 山田 靖宣
大橋 昌宏 河津(恒川)悠美子 片山(山)英子
古田(清水)萬里 佐野 孝善 諸戸 貞典
荒川(竹内)嘉子 加藤(樋口)あや子
昭和36年卒業(第13回) 小川 靖二 田口 宗男
服部 功嗣 辻誠(樋口)吾 吉田 憲示
近藤 章弘 田島 明子 山口 俊明
一 村 勝彦 鬼頭 勝
杉戸 孝至 岡田(鬼頭)以子 都築(高田)桃子
大 矢 利之 北川(加藤)治子 三輪(鬼頭)暁美
福谷 理孝 武藤 幸洋 若杉 喬
松浦 昇 鶴口(服部)たま 岩間 昭広
柳 瀬 満治 竹内(坪井)美子
今井(笹木)春代 成田(祖父江)鈴子 西川 恵美子
鎌谷(菱田)美代子 加藤(服部)弘子 鶴飼 三樹雄
柴田 瞳 平松 正恵 奥田 英毅
村瀬 正光 安井 邦昭 山田 奥村)保子
近藤(樋江井)直美 福島(福島)一枝
昭和39年卒業(第16回) 菊本(水上)敦子
安藤(浅井)邦子 小嶋(飯島)勝子 森 芳照
鬼頭 守洋 小谷 佳男 津端 崇世
林(八木)治子 堀部(山田)隆子 野間 了
福井 二郎 岡田(中島)睦子 後藤(長谷川)節子
高山(岡)みち子 武藤 和彦
富山(植野)弘子 清水 善勝 都築(高田)桃子
森(尾藤) 浩 加藤 和彦 飯田(加藤)容子
梅村 和弘 鈴木 晋 早川 栄一
黒部(山田)久美子 大野 昭康 寺島 照夫
佐藤(村上) 豊 秋田 浩平 服部(杉浦)登代子
伊藤 敏子 栗本(中村)美千子 坪井 賢光
服部 岩雄 安田 勝次 安田(渡部)富美子
松川 祥二 山田 善法 早川 利子
昭和41年卒業(第18回) 船越 宣幸
吉村(木村)由紀子 鬼頭 叔子 中村(鈴木)忍
野村(戸谷)きみ子 岡本 昭博 横井 善博
服部 好信 山田 和紀 上田 金男
田中 健太郎 荒川(荒川)靖子 小谷 富夫
岡部 富夫 松原 隆 森 守 徹
昭和42年卒業(第19回) 山崎(野間)圭子
中村 守朗 山崎 俊博 志津野 博行
戸谷 賢一 鈴木 英利 北島 正典
梅村 隆美 細川 譲二 犬飼 長門
奥村 彰司 中島(加藤)さかえ 矢野 哲二
内山 信司 水野 三郎 内山 信司
三澤(立松)美登里 八木 孝司 服部 裕康
大矢(近藤)茂美 木下(安井)規子 花村 房幸
水谷 久美子 昭和47年卒業(第24回) 寺倉(真相)かをり
山口 光夫 岡村 和恵 奥村 昇

昭和40年卒業(第17回)

飯田(加藤)容子 石黒 英雄 高桑(大久保)益子
山田 哲夫 飯田 和実 岩瀬 泰雄
木村(清水)勝正 飯田 一 田中 雅
梅村(猿渡)美知容 青山 正治 杉山 裕二
坂野 幹雄 藤野 幹雄 岸山(山田)みどり
荒川 浄信 長谷川 孝雄 堀田 幸久
水野(梅村)豊子 石原 豊 岩室 克己
加藤 幸雄 本藤(平田)厚子 伊藤 恭正
近藤(近藤)初美 中村 明美 成田 護
鳥井(鬼頭)妙子 伊藤 博康 加藤(内藤)光隆
田中(川瀬)幸子 松本(澤田)富子
平岩(柴田)久江 前田 誠
山田 孝司 岡田 陽平 山田 安政

昭和44年卒業(第21回)

飯田 一

中川中學校

須田 亮司 高坂 泰右 伊藤(石野)敬子
立松 英夫 京 藤 健司 吉田(早川)あい子
昭和21年卒業(第3回) 馬場 洋 青木 八束
古田 肥弘 長谷川 士郎 坂野(市江)照子
昭和22年卒業(第4回) 藤田 富久 本田 詞
吉川 与四朗 宮田(岸本)トシ 増山 睦臣
昭和23年卒業(第5回) 加藤 睦美 杉浦 正良 伊藤 英一
鈴木 照仁 沖本(恒川)久子 井上 博
昭和24年卒業(第6回) 佐々木 信一 内山(加藤)清子 酒井 章一
恒川 正男 角(山本) 貞子 伊藤(鈴木)かよ
日比 祐市 家守(福谷)幹雄 伊藤 博彦
吉田 孝則 飯田 慶彦 山田(伊藤)幸子
松蔭高等学校 伊藤 昇 石川(岩永)妙子
昭和24年卒業(第1回) 宮村 勉 中山(川口)都子
酒井 幸治 若尾 敬 久野(木村)順子
中川 六之 安藤(安藤)美智子 大葉(白井)愛子
古橋 攝郎 若松(市江)利子 平田(木村)文子
原(船橋)義夫 西垣(安井)澄子 松井(祖父江)和子
昭和25年卒業(第2回) 稲村 和男 大瀧 浩 廣田(玉越)宏子
吉田(河西)敏子 太田(木村)順子 新美(中川)潤子
立松(立松)艶子 高阪 彰 山田(岡田)久美子
昭和26年卒業(第3回) 杉浦 尚三 挺屋 義博

昭和27年卒業(第4回)

飯田 弘臣 市江(浅井)隆 江口 暢一
奥村 巳善 貝谷 禎男 後藤(中根)正雄
細川 史郎 吉田 計 鈴木 和子
山本(山田)典子 児玉 三千男 原田(山田)国代
高坂 泰右 伊藤(石野)敬子 今本 修福
吉田(早川)あい子 青木 八束 坂野(市江)照子
本田 詞 増山 睦臣 伊藤 英一
井上 博 酒井 章一 松永(鈴木)かよ
伊藤(鈴木)敦子 伊藤 博彦 山田(伊藤)幸子
石川(岩永)妙子 中山(川口)都子
久野(木村)順子 大葉(白井)愛子
平田(木村)文子 松井(祖父江)和子
廣田(玉越)宏子 新美(中川)潤子
角田(早川)良子 山田(岡田)久美子
挺屋 義博

昭和28年卒業(第5回)

京 藤 健司 馬場 洋 青木 八束
坂野(市江)照子 本田 詞 増山 睦臣
伊藤 英一 井上 博 酒井 章一
松永(鈴木)かよ 伊藤(鈴木)敦子
伊藤 博彦 山田(伊藤)幸子 石川(岩永)妙子
中山(川口)都子 久野(木村)順子
大葉(白井)愛子 平田(木村)文子
松井(祖父江)和子 廣田(玉越)宏子
新美(中川)潤子 角田(早川)良子
山田(岡田)久美子 挺屋 義博

昭和29年卒業(第6回)

大瀧 浩 廣田(玉越)宏子 新美(中川)潤子
角田(早川)良子 山田(岡田)久美子
挺屋 義博

昭和30年卒業(第7回)

青木 八束 坂野(市江)照子 本田 詞
増山 睦臣 伊藤 英一 井上 博
酒井 章一 松永(鈴木)かよ 伊藤(鈴木)敦子
伊藤 博彦 山田(伊藤)幸子 石川(岩永)妙子
中山(川口)都子 久野(木村)順子
大葉(白井)愛子 平田(木村)文子
松井(祖父江)和子 廣田(玉越)宏子
新美(中川)潤子 角田(早川)良子
山田(岡田)久美子 挺屋 義博

昭和33年卒業(第10回)

片山(市野)主水 片島 一宏 田島 康雄
林 康雄 伊藤 忠男 平松 純一
岩田 晏弘 上園 義輝 上園 進
山口 浩 山田 広嗣 山田 広嗣
田畑(後藤)浜保

昭和35年卒業(第12回)

渡辺 倫郎 成田(浅井)禄郎 河津 大器
北折 惺美 鹿島 貞和 成田 洋之
丹羽 正人 早瀬 房紀 佐藤(福谷)新治

昭和37年卒業(第14回)

山口 俊明 一 村 勝彦 鬼頭 勝
杉戸 孝至 岡田(鬼頭)以子 都築(高田)桃子
大 矢 利之 北川(加藤)治子 三輪(鬼頭)暁美
福谷 理孝 武藤 幸洋 若杉 喬
松浦 昇 鶴口(服部)たま 岩間 昭広
柳 瀬 満治 竹内(坪井)美子
今井(笹木)春代 成田(祖父江)鈴子 西川 恵美子
鎌谷(菱田)美代子 加藤(服部)弘子 鶴飼 三樹雄
柴田 瞳 平松 正恵 奥田 英毅
村瀬 正光 安井 邦昭 山田 奥村)保子
近藤(樋江井)直美 福島(福島)一枝
昭和39年卒業(第16回) 菊本(水上)敦子
安藤(浅井)邦子 小嶋(飯島)勝子 森 芳照
鬼頭 守洋 小谷 佳男 津端 崇世
林(八木)治子 堀部(山田)隆子 野間 了
福井 二郎 岡田(中島)睦子 後藤(長谷川)節子
高山(岡)みち子 武藤 和彦
富山(植野)弘子 清水 善勝 都築(高田)桃子
森(尾藤) 浩 加藤 和彦 飯田(加藤)容子
梅村 和弘 鈴木 晋 早川 栄一
黒部(山田)久美子 大野 昭康 寺島 照夫
佐藤(村上) 豊 秋田 浩平 服部(杉浦)登代子
伊藤 敏子 栗本(中村)美千子 坪井 賢光
服部 岩雄 安田 勝次 安田(渡部)富美子
松川 祥二 山田 善法 早川 利子
昭和41年卒業(第18回) 船越 宣幸
吉村(木村)由紀子 鬼頭 叔子 中村(鈴木)忍
野村(戸谷)きみ子 岡本 昭博 横井 善博
服部 好信 山田 和紀 上田 金男
田中 健太郎 荒川(荒川)靖子 小谷 富夫
岡部 富夫 松原 隆 森 守 徹
昭和42年卒業(第19回) 山崎(野間)圭子
中村 守朗 山崎 俊博 志津野 博行
戸谷 賢一 鈴木 英利 北島 正典
梅村 隆美 細川 譲二 犬飼 長門
奥村 彰司 中島(加藤)さかえ 矢野 哲二
内山 信司 水野 三郎 内山 信司
三澤(立松)美登里 八木 孝司 服部 裕康
大矢(近藤)茂美 木下(安井)規子 花村 房幸
水谷 久美子 昭和47年卒業(第24回) 寺倉(真相)かをり
山口 光夫 岡村 和恵 奥村 昇

まつかけ会事務局

改姓 住所変更 等のご連絡時に、送付された住所・氏名の上部に記載されている数字を必ずご記入ください。

また、同級生・同窓生で、町名・地番が変更になり、届かなくなったという方がいらっしゃいましたら、メール、郵送等でご連絡いただくようお願いください。(宛先不明との理由で大量に戻ってきました。)

同窓会(まつかけ会)HP <https://matsukage.aichi-shoin.jp>

まつかけ会ホームページ



事務局／管理委託会社

日本メール(株) 担当：三澤

〒460-0024 名古屋市中区正木3-13-8

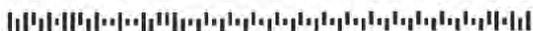
学校に事務局はありませんので連絡は郵送かメールにてお願いします。

000-0000

〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇

松蔭 太郎 様

※ 99999



※

の部分の数字を
必ずご記入ください!!

提出日 月 日

氏名
(旧姓)

No.

卒業年度

昭和
平成
令和 年

普通
商業

組

新住所

電話 () -

旧住所

以上をご記入の上、同窓会事務局に郵送。

郵送先

愛知県中川中學校 同窓会「まつかけ会」

愛知県立松蔭高等学校

事務局／管理委託会社 日本メール(株) 担当：三澤

〒460-0024 名古屋市中区正木3-13-8

住所変更届

『まつかけ会年会費』ご協力のお願い

『まつかけ会』会報は皆様方の年会費で発行されています。何卒御協力をお願い申し上げます。

- ・まつかけ会年会費：3,000円
- ・お支払い方法：口座振替 または コンビニ払込
(口座振替の手続き方法については会報中面をご確認ください。)

※お支払いはどちらか一方の方法でお願い申し上げます。(口座振替を申込された方はコンビニ払込は不要です)